



いた古い暖簾のイメージとは違い、暖簾に新しい魅力とサインデザインの意味を  
生み出していました。

加納さんが制作を受けた当初は、デザインに関心を持つ人がなく加納さんが  
デザインの全てを任されていたのですが、お互い暖簾をかけることや、隣近所の  
暖簾を見ることで、各々自分の家のしつらえを考えた思いやデザインの要求が、  
住民から出る様になりました。今加納さんの役目は、人々の要求したデザインを  
形にする職人に徹しているそうです。人々の思いや、デザイン力が高まることで、  
自然発生的に住民自発の町づくり意識が高まり、1996年には住民組織「町並み  
保存事業を応援する会」が発足しました。この経過を経て、今は勝山の町づくり  
の母体となっている組織は、NPO法人勝山・町並み委員会です。運営は地元の  
企業人や住民で組織されています。町内の旧家から寄贈された老朽化した明治  
時代中期の醤油蔵を改築して造られた地域交流センター「勝山文化往来館ひ  
しお」が活動の拠点となっています。館内では多種多様な文化・交流活動が展開  
されています。国内外の芸術家を招きアーティストインレジデンスや作品展、音  
楽会、住民団体による多彩なイベント活動、保存地区内の空き家の管理運営、暖  
簾の町づくり事業などです。現在「ひしお」には、年間1万人以上の人々が訪れる  
そうです。

秋の勝山の伝統的な行事「噴嘩だんじり」に対し、10年ほど前から始まった、町並み委員会企画の春の「雛  
祭り」は、160軒余の民家・商家の軒先に思い深い雛人形が飾られる大きな行事の一つです。昨年は4万人  
と観光人気もともに高まっていますが、目的は観光振興の町おこしではなく、あくまでも住民の生活に主体を  
おいて、人々が子供の未来、町の未来を見据えて、みんなが自分の考えや楽しみ方を表現できる自分丈の企画  
を大本としておられ、出来る所から無理をせず、人に押し付けず、コミュニケーションを楽しみながら淡々と生  
活の一部としてやっているという加納さんの言葉が印象的でした。このことが、順調に永く発展的に続けてこ  
られた要因かも知れません。また加納さんは暖簾が縁で出来たこの住民の意識と活力以外に、城下町であり文  
化的基盤を持っている、町の構成が集合して家が並んでいる、市が事業に興味を持ち協力的であり、こまめに  
結果を検証し評価している、年齢的に40代から60代が中心に活動している町の規模も調度良いなどを、町  
が持っている町おこしの良い条件としてあげられていました。加納さんの今後の計画は、空き家となっている所に、  
勝山に来て自分の思う物を創れる職人を呼びたいと熱く語っておられました。

加納さんのお話を聞いて、忘れかけていた人間が積み重ねて来た自然な日常の暮らしの大切さや楽しさが  
伝わってきて、彼女の家庭から地域、日本、世界、宇宙への大きな愛情を感じました。人類の始まり以来布は衣  
食住の様々な生活の場面で人と関わって来たことで、人類が感知する布に対する永遠のいとおしさは、布とい  
う切り口で始められた暖簾制作を喚起させ、何人にも馴染みやすく活動の大きな流れとなったのではないで  
しょうか。これこそ「布の力」だと実感することになりました。(奈良平 宣子)

## 異業種交流セミナー & 「布の力・NOREN」セミナー



藤森 勝治氏

セミナー第2部風景



交流会風景 会場ローラシア



■日時/2009年11月21日(土) ■場所/大阪化学繊維会館

今回の人材育成部会による異業種交流セミナーでは、様々な機械に用い  
られるネジを製造されている、藤森製作所の藤森勝治さんにお話を伺いまし  
た。藤森さんはご自身のネットワークを活用し、オーロラの人口発生装置を  
製作するといった活動をされている方と聞き、お話を大変楽しみにしていま  
した。普段のお仕事では、主に農業用に使用する機械のネジを製造され、藤  
森さん自らが北陸地方の農業地帯に Outreach、実際に機械を使われている方  
の話を聞いたり、新しい機械の情報収集に行かれるということでした。農業  
用の機械も日々新しい機械が開発されていて、例えば、にんじんを握り起こし、  
へたを取り、重さ分けまでしてくれる機械などが出てきているそうです。藤森  
さんは、そういった新しい機械の情報をいち早くつかみ、それらの機械に対応  
したネジを、早い段階から仕込んでリストックし、売っていくという仕事をされ  
ているということでした。商品を先読みしてリストックしていくというのは、テキス  
タイルの企画販売に非常に似ていて、異なる職種でありながら、とてもおもし  
ると思いました。

藤森さんが仕事をする上で大切にしていること、として「ヒューマンネット  
ワーク」という言葉を挙げられました。藤森さんの話されたヒューマンネット  
ワークとは、様々な分野にいる人との繋がりを持つことの大切さや、おもしろ  
さでした。実際に藤森さんがオーロラの人口発生装置を作った際、様々な技  
術を持った人達の協力のもと、完成まで辿り着いたというお話を伺いました。  
装置に使う真空の筒を作るために、潜水艦を作っている方に協力してもらい  
に行ったというお話が特に印象的で、藤森さんの大切にしているヒューマン  
ネットワークの力が発

揮されたエピソードだと思いました。わからないことはそのこのプロに聞く、  
プラスチックならプラスチックに強い人に聞く、その代わりに自分の知ってい  
ることを教える。それぞれが持っている技術や知識を結集することで、どこに  
もない物が作り出せるということ、改めて教えていただきました。

セミナーの後の交流会にも、橋さんをはじめ、藤森さんの高校の同級生の  
方々が集まり、和やかな雰囲気の中で様々な意見が交わされた交流会になりま  
した。たくさんの方々と交流を深めていきたいと思い、入ったTDAで、様々なお  
仕事をされている方のお話を聞くことができ、とても貴重な時間を過ごすこ  
うことができました。(石井 知沙)

※セミナー第2部として 板東 正氏による「暖簾考」セミナーおよび、  
野々口 悟氏による「のれんの町勝山 取材報告」が行なわれました。